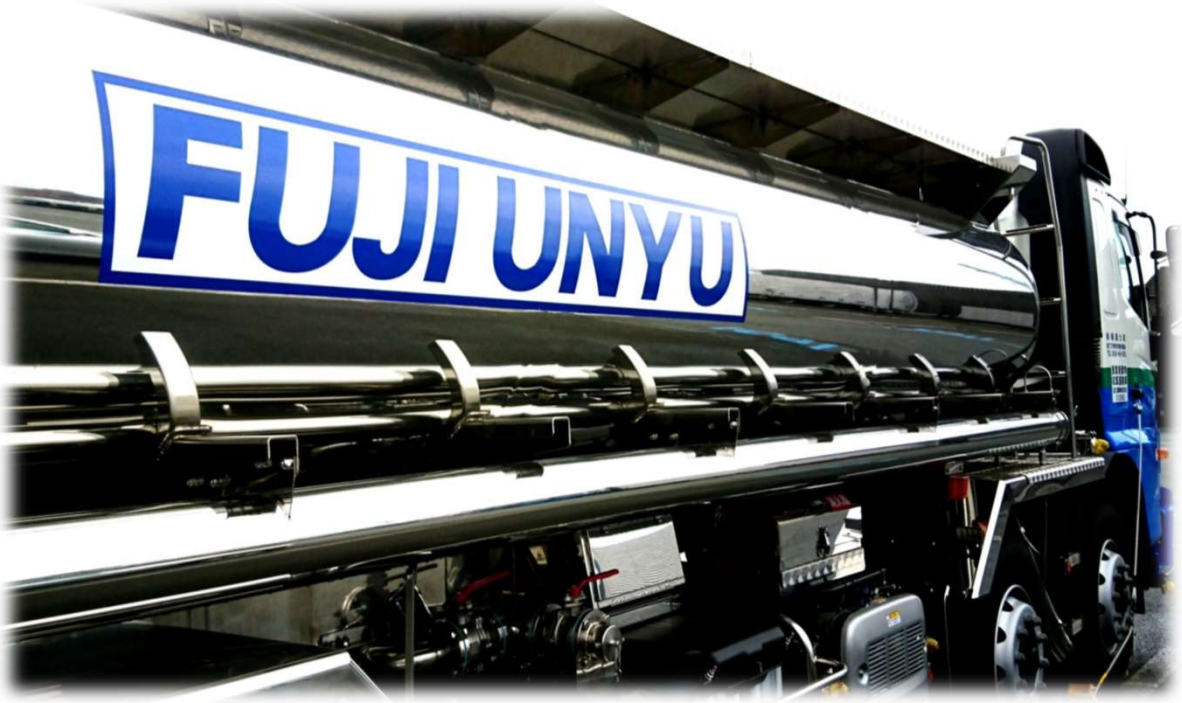
®環境省
エコアクション21
認証番号0011220

エコアクション21

環境経営レポート

対象期間:2023年4月～2024年3月



富士運輸株式会社

発行日:2024年 7月 6日

1　取組の対象組織・活動

社　　名	富士運輸株式会社
代　表　者　名	阿部　悦雄
所　　在　　地	本社:　　〒756-0847　山口県山陽小野田市新沖3丁目1番13号 北九州営業所:　〒801-0821　福岡県北九州市門司区黒川961-1(小森採石場内) (2023年10月開所)
環境管理責任者	上野　順司　　0836-88-0153
事　業　内　容	一般区域貨物自動車運送事業 産業廃棄物収集運搬業 特別管理産業廃棄物収集運搬業 不動産賃貸業 太陽光発電事業
創　　立	昭和39年7月27日
資　　本　　金	1,000万円
従　業　員　数	70名
事　業　年　度	4月から翌年3月
売　　上　　高	963百万円(2023年度)
敷　地　面　積	9,825m^2
太陽光発電施設規模	・本社　10kW　・本社カーポート　7.6kW ・東須恵倉庫　45kW　・川上発電所　330kW
認証・登録範囲	全組織・全活動

2 環境経営方針

【 基本理念】

富士運輸株式会社は、深刻化する環境破壊を防止するため、企業活動のあらゆる面で環境保全活動を積極的に推進させ、輸送サービスの提供という事業活動から生ずる環境負荷を継続的に改善し、環境経営を推進します。

【行動指針】

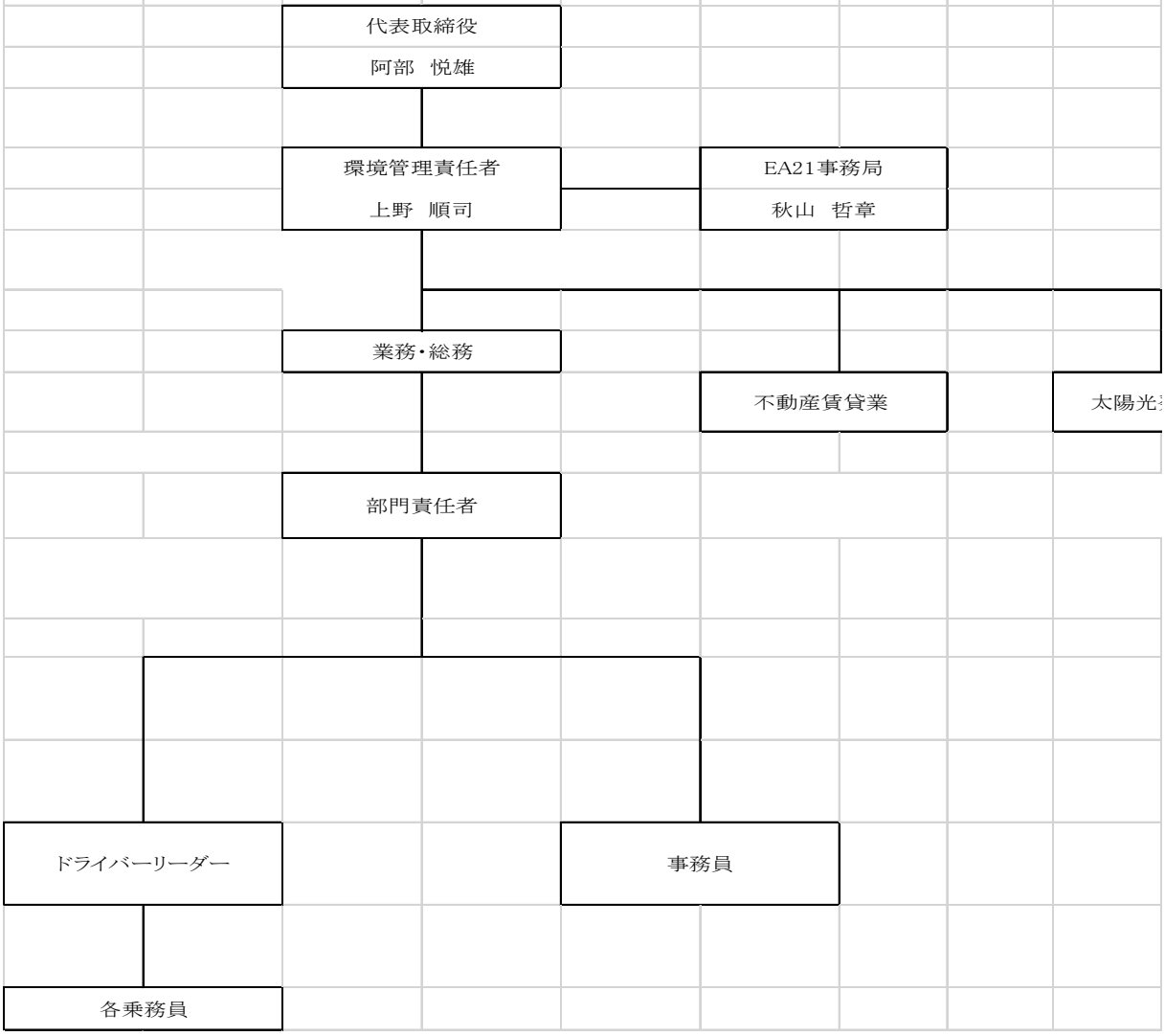
① 法令を遵守し、環境保全に努めます。
② 物流サービスの提供に際し、地球温暖化対策を行います。
③ エコドライブ・エコオフィスなど省エネルギー運動を推進します。
④ 環境保全に関する教育と啓蒙活動を実施します。
⑤ 廃棄物の適正処理を行い、5R運動を推進します。
・Refuse（リフューズ）：過剰包装など、ごみになるものを断る
・Reduce(リデュース)：買う量・使う量を減らす。
・Reuse(リユース)：ゴミにしないために繰り返し使う。
・Recycle(リサイクル)：捨てる時は資源にして再利用する。
・Repair(リペア)：修理して持続的に使う。
⑥ 本方針は文書化しホームページに記載するとともに、社外から要求があれば開示します。
⑦この方針は様々な機会を通じて全ての従業員に周知徹底し、環境に対する意識の向上に努めます。

制定　2016年6月30日
改訂　2024年4月1日

富士運輸株式会社

代表取締役社長　阿 部 悦 雄

3　実施体制



責任者	役割
代　表　取　締　役	環境方針の策定を行い、EA21の取組状況の評価・見直しおよび必要な指示を行う。
環境管理責任者	代表取締役の指示を受けEA21を構築・維持するとともに運用状況を報告し必要な指示を行う。
ＥＡ２１事務局	データを集計・解析し、見直しに必要なデータの報告を行うとともに環境レポートの作成を行う。
各部門責任者	環境管理責任者の指示を各部門員に指示・伝達し環境方針に則り業務を遂行させる。

4. 年度初めに策定する環境経営目標と当年度実績とその判定、及び、次年度の環境経営目標

年度始めに策定										見直し後 次年度目標 (2024年度) 基準は 2023年度 実績
項　目		単位	2022年度	2023年度			2024年度	2025年度	2026年度	
			実績値 (基準値)	目標値 (基準値比)	実績値 (目標値比)	目標の 評価	目標値 (基準値比)	目標値 (基準値比)	目標値 (基準値比)	
1	二酸化炭素 排出量 の削減	kg-CO_2	3,244,038	3,211,598 以下	2,995,550	○	3,179,157 以下	3,146,717 以下	3,114,276 以下	2,729,380 以下
				(△1.0%)	(△6.7%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)	(△8.9%)
1-1	電力使用量 の削減	kWh	139,428	138,034 以下	118,506	◎	136,639 以下	135,245 以下	133,851 以下	117,315 以下
				(△1.0%)	(△14.1%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)	(△1.0%)
1-2	軽油使用量 の削減	L	1,231,348	1,219,035 以下	1,138,136	○	1,206,721 以下	1,194,408 以下	1,182,094 以下	1,024,323 以下
				(△1.0%)	(△6.6%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)	(△10.0%)
1-3	燃費の向上	km/L	3.39	3.4230 以上	3.34	△	3.4578 以上	3.5256 以上	3.4917 以上	3.4400 以上
				(1.0%)	(△1.5%)		(2.0%)	(4.0%)	(3.0%)	(3.0%)
1-4	ｶﾞｿﾘﾝ使用量 の削減	L	2,348	2,325 以下	3,231	×	2,301 以下	2,278 以下	2,254 以下	3,199 以下
				(△1.0%)	(39.0%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)	(△1.0%)
1-5	灯油使用量 の削減	L	5,330	5,277 以下	6,530	×	5,223 以下	5,170 以下	5,117 以下	6,068 以下
				(△1.0%)	(23.8%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)	(△7.1%)
2	ｳｴｽ ﾘﾕｰｽ品率	%	-	(100.0%)	(100.0%)	◎	100%	100%	100%	100%
3	低公害車 新車導入率	%	100.000	99.000 以上	100.000	◎	1.000 以上	1.000 以上	1.000 以上	1.000 以上
				(△1.0%)	(1.0%)		(△99.0%)	(△99.0%)	(△99.0%)	100%
4	水使用量 の削減	m^3	2,222	2,200 以下	2,199	○	2,178 以下	2,155 以下	2,133 以下	2,177 以下
				(△1.0%)	(△0.0%)		(△2.0%)	(△3.0%)	(△4.0%)	(△1.0%)

判定:　◎:削減・増加率10%超　○:10%以下～0%以上　△:0%未満～10%増　×:10%超・増

※1　購入電力の排出係数(調整後排出係数)は、2021年度中国電力株式会社　0.545kg-CO_2／kWhを使用しました。

※2　化学物質の使用はないので目標に掲げていません。

※3　1－3の燃費については、重要項目として2019年度から新設しました。

※4　目標は北九州営業所の実績が蓄積次第見直します。なお、実績値欄には北九州営業所の実績値を含む。

5　2023年度　環境経営計画

1．二酸化炭素排出量の1％削減

取組項目		活動項目
1	電気使用量の削減	1 冷暖房温度の徹底管理 （冷房26℃、暖房22℃）
		2 フィルターの定期的な清掃
		3 残業時の不要な照明の消灯
		4 PCを省電力設定で使用
		5 買替の際は、省エネ機器に更新
2 3 4	軽油・ガソリン灯油の使用量の削減	1 エコドライブの励行
		2 アイドリングストップの厳守
		3 配車計画の合理化
	燃費の向上	4 急発進・急加速・急ブレーキ不要の運転
		5 不要荷物の積み込み禁止
5	灯油使用量の削減	積込スケジュールの調整

2．4R運動

取組目標	活動項目
ウエス　リユース品100％	ウエス　リユース品利用

3．低公害車の導入　100％

取組目標	活動項目
台数の増加	低公害車導入の推進

4．水使用量の1％削減

取組目標	活動項目
水使用量の削減	細かい節水に努める

6　2023年度環境経営計画の取組結果と
その評価、次年度の取組内容

活動項目	取組結果及び評価	次年度の取組内容
総合評価	二酸化炭素排出量は基準値2022年度比1%削減を目標としていたが、実績は6.8%の減となり目標達成となった。弊社の環境負荷は貨物輸送で発生する二酸化炭素の排出が主である。大型車での走行距離を比較すると、2022年度が418万km、2023年度が378万kmとなっており39万km(9.53%)減少し、前年度と同様な走行距離(運搬量)の減少が最大の原因と考えられる。そのほか、燃費は目標を上回る事はできなかったが、各社員へのエコドライブの呼びかけも一定効果が出ている。また、各発電所の監視、維持管理も出来ていた。	総合的な環境対応を可能にするため、各社員の環境に対する意識をさらに高める。低公害車導入と併せ、二酸化炭素排出量で大きなウエイトを占める軽油使用量削減の為エコドライブへの意識を高め、燃費改善に努めていく。また、引き続き、各太陽光発電設備の発電量維持の為に、監視、維持管理に努めていく。
電力使用量の削減	電気使用量では基準値2022年度の△1%を目標に設定していたが、14.2%大幅に削減することが出来た。この要因として、アスファルト運搬の保温での電気使用の頻度が昨年より更に減った事があげられる。また、節電と併せてエアコンが新しくなっている事で一番使用頻度が高くなる夏場の7～9月の消費電力の省エネ効果も大きく出た。(県内の月間平均気温で夏場、過去最高の29度だった) そのほか、太陽光発電設備の維持管理も順調に行えており、全体の太陽光発電量も増え、CO2削減に寄与出来ている。	引き続き、こまめな節電を行うとともに、各太陽光発電設備の維持管理に努めていく。
軽油使用量の削減	基準値2022年度と2023年度の比較で考えると、軽油使用量は123万ℓから113万ℓと、10万ℓ(8.1%)減少している。走行距離は418万kmから378万kmと40万km(9.5%)減少している。走行距離が減ることで軽油使用量も減っている。	軽油使用量そのものは、運搬量の増減に大きく左右されるが、弊社での一番の環境負荷が大きい所でもあるので前年度同様、燃費の向上は引き続き追求しながら、併せて安全運行に努めるよう、教育していく。
燃費の向上	燃費は2022年度3.39km/ℓ。2023年度は3.34km/ℓと微減となった。 要因の一つとして配送環境が変わった事があげられる。11月以降、白油部門の配送エリアの変更に伴い、一回の配送距離が短くなり、ストップアンドゴーの頻度が上がっている事も燃費低下へ影響し、各月軒並み悪化してしまった。	安全衛生会議で、各部門毎の燃費を公開しエコドライブの推進を促していく。配送環境が大きく変わる中でも引き続き、燃費の向上は追求しつつ、併せて安全運行に努めるよう、教育していく。 また、乗務員もお弁当の注文ができるようにし、会社内で食べてもらう。それにより、無駄なアイドリングを防いでいく。
ガソリン使用量の削減	ガソリンの使用量は基準値2022年度が2348ℓ。2023年度が3231ℓとなり、883ℓ(37%)の大幅な増加となった。要因としては、荷卸しパトロールを強化したことが考えられる。また、電力使用量でも触れている、過去最高気温の影響もあり、屋外での車内待機の時間でのアイドリング時間の増加も要因の一つとしてあげられる。あわせて、コロナ収束により中止になっていた会議が再開されたことで出向く頻度も増えた事が考えられる。	各々が出かける前に、郵便や買い物など周りにお願いできることはお願いするなど、ガソリンの使用そのものも削減していく。パトロールの際にも、効率的なルートで回る様意識する。
灯油使用量の削減	灯油使用量は基準値2022年度と2023年度の比較では、5330ℓから6530ℓと、1200ℓ増加した。この要因は、今回イレギュラーな使用であるが、タンクローリーの洗浄の為に1200ℓ使用している。これを考慮し、通常使用のもののみで比較した場合、昨年度と同じ使用量といえる。	アスファルトの受注量により、灯油の使用量は大きく左右されるが、無駄のない使用を引き続きしていく。
ウエス・リユース品	ウエスのリユース品使用率100%。	引き続き、ウエスはリユース品を使用する。
低公害車導入	低公害車の購入は、ほぼ目標達成できている。社用車として電気自動車も導入出来た。環境への意識の向上とともに、燃費等に与える影響も大きく、更なる購入を計画的に実施する。	予算を考慮しつつ、代替えにて環境対応を徹底する。 また、不要な車両の処分等を行う。
水使用量の削減	水使用量は基準値2022年度が2222㎥。2023年度が2199㎥となり、23㎥の減少となっている。使用量の最も影響のある要因は、日々の洗車や荷箱、タンク洗浄が考えられる。荷箱、タンク洗浄に関しては仕事量の減少により比例して減っている。	洗車機、ホースノズル等の維持管理に取り組む。 こまめな節水に努める。

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法の遵守状況をチエックの結果違反はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去50年間ありません。

適用される主な法規制	評価
廃棄物処理法	○
浄化槽法	○
フロン排出抑制法	○
消　防　法	○
毒物及び劇物取締法	○

8　代表者による全体評価と見直し・指示の結果

評価および見直しの実施年		2024年4月15日
評価者名(代表者名)		阿部　悦雄
評価及び見直しに参加した		阿部　悦雄、岡本　淳
評価	環境経営システムが有効に機能しているか	軽油使用量は、前年度2022年と今年度2023年は123万ℓから113万ℓとなっており、10万ℓ(6.6%)減と目標を達成できている。これは、走行距離が大きく減少したことが最大の要因だと言える。(418万kmから380万kmと38万km(10%)の減少)。 当社では、走行距離が減れば、結果として軽油の使用量は減るので、見た目上数字が改善したかのように見えてしまう。そこで燃費を重要視して考えているが昨年度と今年度では、3.39km/ℓから3.34km/ℓと0.05km/ℓ悪化している。2024年度では、乗務員のお弁当注文による無駄なアイドリング防止や、今まで以上に高い目標設定を行い、燃費を改善をしていく。
	環境への取組は適切に実施されているか	二酸化炭素排出量は、基準値の前年2022年度より6.8%減少している。当社で一番の割合を占める軽油の使用量が、大きく減少した結果だと言える。また、軽油使用量は6.6%の減少だが、全体の排出量は6.8%減少しているので、今年度は電力使用量の減少が二酸化炭素排出量に大きく寄与していることが考えられる。 今年度は、電気自動車とV2Hを購入をしており、環境へ配慮した取組を進めている。
見直し(変更の必要性)	環境経営方針変更の必要性	変更の必要なし
	環境経営目標変更の必要性	基準年度を前年2022年に設定
	環境経営計画変更の必要性	変更の必要なし
	実施体制等変更の必要性	変更の必要なし

9　許可の内容・施設の状況・処理実績

産業廃棄物

自治体	許可番号	許可年月日	許可期限	
山口県	第03506012583号	平28年11月1日	令和10年10月31日	
広島県	第03400012583号	平23年10月26日	令和8年10月25日	
岡山県	第03300012583号	平29年8月15日	令和13年7月31日	
島根県	第03200012583号	平30年7月10日	令和7年5月24日	
鳥取県	第03104012583号	令6年4月15日	令和11年4月14日	
福岡県	第04000012583号	平29年7月30日	令和6年7月29日	※更新手続中
大分県	第04402012583号	平27年10月19日	令和9年10月18日	
熊本県	第04305012583号	平27年10月6日	令和9年8月10日	

特別管理産業廃棄物

自治体	許可番号	許可年月日	許可年月日	
山口県	第03556012583号	平成27年12月1日	令和9年11月30日	
広島県	第03450012583号	平成28年10月26日	令和8年10月25日	
島根県	第03250012583号	令和6年3月27日	令和11年3月26日	
鳥取県	第03154012583号	令和6年4月15日	令和11年4月14日	
福岡県	第04050012583号	平成29年10月23日	令和6年10月22日	※更新手続中
大分県	第04402012583号	平成31年3月14日	令和13年3月13日	
熊本県	第04355012583号	平成29年5月12日	令和13年3月4日	
千葉県	第01250012583号	令和4年7月28日	令和9年7月27日	

廃棄物の種類		山口県	広島県	岡山県	島根県	鳥取県	福岡県	大分県	熊本県	千葉県
産業廃棄物	燃えがら	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	汚泥	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	廃油	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	廃酸	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	廃アルカリ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	廃プラスチック類	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	紙くず	◎	◎	◎		◎		◎		
	木くず	◎	◎	◎		◎		◎		
	繊維くず	◎	◎	◎		◎		◎		
	動植物性残渣	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	ゴムくず	◎	◎	◎		◎		◎		
	金属くず	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	ｶﾞﾗｽ・陶磁器・ｺﾝｸﾘｰﾄ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	鉱さい		◎	◎		◎		◎		
	がれき類	◎	◎	◎	◎	◎		◎		
	ばいじん	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	13号廃棄物									
特別管理産業廃棄物	汚泥	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
	廃油	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎
	廃酸	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
	廃アルカリ	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	
	ばいじん						◎	◎		
	感染性廃棄物	◎	◎		◎	◎				
	廃PCB等									
	廃石綿等	◎	◎		◎	◎	◎		◎	

・積替保管施設：なし

2023年度（2023年4月～2024年3月）

処理方法等	廃棄物等種類	収集運搬量（kg）
収集運搬	燃え殻	
	汚泥	2,385,780
	廃油	1,908,980
	廃酸	153,160
	廃アルカリ	4,839,130
	廃プラスチック類	350,560
	紙くず	
	木くず	1,200
	金属くず	5,500
	水銀含有ばいじん	
	ばいじん	2,035,210
	廃油（特管）	2,010,730
	廃酸（特管）	
	廃アルカリ（特管）	94,210
	廃油（特管　有害）	
	廃アルカリ（特管　有害）	246,120
収集運搬量　合計		14,030,580

運搬車両の種類と台数

車　　種	車番	最大積載量/kg	備考
タンク	1396	10,800	
タンク	1691	11,000	
タンク	1889	10,080	
タンク	2674	11,280	
タンク	2790	11,280	
タンク	2823	11,520	
タンク	3005	11,220	
タンク	2850	11,160	8
ダンプ	1574	13,900	
ダンプ	554	12,400	
ダンプ	8774	10,600	
ダンプ	8808	10,900	
ダンプ	434	10,300	
ダンプ	548	9,500	6
			14